



ラグビーで青春の輝きを取り戻す

～パンツの色で年齢は一目瞭然～

シニアライフアドバイザー 松本すみ子

東京オリンピック前年の2019年に、アジアで初めてのラグビーワールドカップが日本で開催されます。最近発表された開催12都市の中には、岩手県・釜石市も含まれていました。東日本大震災の被災地であり、新日鉄釜石ラグビー部が日本選手権で7連覇した「ラグビーの町」です。日本のラグビーの歴史は決して浅くありません。そして、日本の中老年のラグビーが世界を牽引していることをご存知でしょうか。

入会資格は40歳以上、上限はなし

40歳以上の中老年男性が集まって、1947年から活動しているラグビークラブがあります。その名も「不惑倶楽部」。ラグビーの魅力にはまり、40歳になるのを待ちわびて入ってくる人も多いたか。「不惑倶楽部」では40歳はまだヒヨッコ。60歳になってようやく一人前とみなされるのだそうです。



60代はもちろん、70代、80代の参加者も少なくありません。なんと、90代のラグーマンが参加することもあるとか！モットーは「不惑倶楽部にOBはいない」。誰もが生きている限り会員であり、体力の続く限りラグビーをすることができるという生涯現役の世界なのです。

メンバーはラグビーを楽しみたいという気持ちと、世代を超えて交流ができるという喜びで集まってきます。練習では果敢にタックルし、ボールを奪い合い、ゴール目指して走ります。観戦している先輩や後輩からは、遠慮のない指示や掛け声が飛びます。心は昔と同じ、“青春真っ只中”なのです。

今でも土日祝日には欠かさずどこかで試合練習を行って

います。「不惑倶楽部」は首都圏中心の活動ですが、北海道から沖縄まで、「惑」の字が入るクラブができています。

白、青、赤、黄、紫、そして金のパンツ

試合は年代別にチームを編成して行いますが、混合で戦うこともあるので、ひと目で年代がわかるように、色分けしたパンツをはきます。白パンは40代、青は50代、赤は60代、70代は黄色、80代は紫。それ以上は金です。「不惑倶楽部」が始めたことで、今では国際標準にもなっています。

「不惑倶楽部」の活動は、カナダや台湾などとの交流試合をきっかけに、世界大会「Golden Oldies」に発展しました。日本の中老年ラグーマンの情熱が世界のラグーマンを刺激し、動かしたのです。

しかし、いくら元気といっても、やはり中老年・シニア世代。活動前には、メンバーの医師が全員の心電図を図り、問題のある人は残念ながら、練習も試合もお預けとなります。

団塊世代が高齢者になりましたが、まだまだ第二の人生を模索中の人もいます。そんな彼らにとって、「不惑倶楽部」は元気で活きのいい先輩に会え、先輩の前ではまだ青二才でいられる心地よさを感じられる場所なのでしょう。

スポーツは体だけでなく、心にも効くのです。

